



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

詩人の言う「砕かれた心」とは、一体どんな心なのか。それは文字通り心が壊れたという意味である。英語では「broken-heart」と訳し、失恋とか失意とか、何か大切なものを失った心の状態のことを指す。

かつて私が、沖縄にある精神科病院でチャプレンをしていた頃、こんな経験をしました。

一人の女性患者がストラップの切れたサンダルを片方ぶら下げ、詰所の前に立っていた。聞くと、彼女の元彼が夜中に家に侵入し切っていた、と訴えている。まさか、そんなことはあるまいと訝しがっていると、隣にいた看護師が「○さん、それじゃ直しませうね」と優しく声をかけ、そのストラップをボンドで貼り付けた。

ところが、翌日も、彼女はストラップの切れたサンダルを片手に立っている。その翌日も、またその次も。半ば呆れている私の傍らで、件の看護師は、また修

理している。最後には、靴に釘を打ちつけて取れないよう修理していた。しかも笑顔で。

しかし、その翌日も彼女は、明らかに引きちぎられ、釘の刺さったままのサンダルを持って立っていた。それでも看護師は笑顔で「○さん、もうこれは直せないから、新しいのを買いに

瞑想

心の砕かれた人々を癒やし、その傷を包む。

詩篇147:3 (協)

主幹牧師 榎本 恵

私は、今もこの時のことを思い出す。彼女の何が、心の中で変化したのか、それは謎である。ただ新しいサンダルが欲しかっただけなのか、苦しむ自分に気づいて欲しかったのか、はたまた、看護師を試していたのか、それは私にはわからない。ただ、酷い男女関係を経験し、心病み愁訴する

しかし、私は思うのだ。それはとても簡単なこと。つまり、サンダルの切れたストラップを直し続ければ、わかるのだ。「心の砕かれた人を癒し、その傷を包み込む」(詩篇147:3) イエスの周りに集って来た人たち、彼らはただ癒しを求めて来ただけだったのか。決してそうではない。それよりはむしろ、傷をそのまま包み込んでくれる方のところへきたかったのではなかったか。そんな場所へ、来たかったのだ。「神の国」とはそんなところだったのではなかったか。

友よ、私たちは誰も皆、愛するものを失い、傷つき、悲しみと嘆きのうちにある「心の砕かれた」者に他ならない。

しかし、その病を癒し、その傷を包んでくださる方がおられる。「すべて命あるものに向かって御手を開き、望みを満足させてください」(詩篇145:16) の方の許へ。

# 沖縄巡礼の旅に参加して

橋本 るつ子

沖縄、梅雨明け宣言の次の日、6月20日(23日まで、総勢12名での沖縄巡礼の旅が始まりました。まだ梅雨の名残の蒸し暑さの中で

したが、今まで経験したことのない貴重な体験をさせていただき、とても心に残る旅でした。

いろいろな書きたいことがありますが、今



第二外科壕の前で。清掃のあと、慰霊祭が始まり。るつこ姉率いるチャイムチームもスタンバイ。

回、私の心に一番響いた糸洲にある陸軍病院第二外科壕慰霊祭について感じたことを書いています。

今までひめゆりの塔には何度も行き、多くの犠牲となられた若き女学生たちのことに思いを寄せておりました。

しかし、この第二外科壕の慰霊祭では、般若心経、沖縄土着の宗教、カトリック、プロテスタントの人たちがそこを掃除し、きれいにしてから慰霊行事をする、と恵牧師から聴いていただけだったの、初めて参加し、とても教えられたことがたくさんありました。

このあたりの住民のほとんどはあの沖縄戦で亡くなり、遺



ぬちどうたから(命こそ宝)の石碑もきれいに…(井伊文字氏自筆)

体はこの第二外科壕の中に放り込まれていたそうです。そのことに心を痛め、戦後石川洋先生がここでの遺骨収集を始められ、今までずっと続けられてきているそうです。

最初は、何で般若心経？とちよっと抵抗があつた私でしたが、土着のお祈りをなさる女の方の祈りを聞いているうちに、それがアメイジンググレイスのメロディに聞こえ、言っておられる言葉は分からなかったですが、本当にここでお亡くなりになった方々への痛恨の思い、安らかに憩つ

てほしいという思いが、また般若心経を共に朗読し、一つひとつの言葉に意味があり、これを大切にしておられるのだということが分かり、今まで私の心の中にあつたちよっと固い思いが柔らかくなってくる気がしました。

カトリックでは「平和の祈り」を、そしてプロテスタントの

私たちは、心を込めてみんな一緒に「いつくしみ深き」を合唱し、また今回初めて私たちが用意していったクワイアチャイムで

「さとうきび畑」「Amazing Grace」を演奏させていただきました。

信仰、経験、年代、性別などなど、違いはありますが、この第二外科壕でお亡くなりになつた方がたを想

い、そのたましいが安らかに憩い、そしてその方たちの尊い犠牲のもとで今ある私たちが心から平和を求めています。すべてが祈りでした。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」  
マタイ5..9



・わが部屋に悲しく浮かぶ 三カ月前に逢いに来られし師のあの笑顔  
・はかりがたき 主のみ心と思えども やはり悲しき師の召天は

### 沖縄巡礼の旅 感謝メールより

築山 広子

(京都葵教会、早天祈祷会の友、常任運営委員)

この旅は、第二外科壕の清掃と慰霊の集い、伊江島のわびあいの里訪問と伊江島ビーチ、沖縄聖書教室は定例ですが、サマリア人病院訪問も含め、その都度ちがいます。でも、旅のメンバーの個性で、定例いかにかわらず、いつも違う雰囲気の中で行われます。

通常のアシュラムとは趣を異にし、行くたびに新たな発見や、気づきが与えられ、恵先生の後にくっついて、飽きずに参加している私です。

今回も、特設クワイヤーチーム演奏という新たな取り組みの中で、またまた恵まれた時間を過ごすことができ感謝でした。



→チャイムの音色に包まれ、入院されている方の手をマッサージする築山姉。どちらも気持ちよく…

### 誕生日カード感謝のお便りより 佐々木 敬兄

目覚めよ、目覚めよ カをまとエシオンよ。(使52の)

ハレバステイの歌声、祝い初め感謝

昨年7月28日の聖書の学び参加、早天への

導き、充実した信仰生活の糧、全て感謝。

一日一生がモットーですが、なお更なる

おみちがきとお祈り願います。

センターの働きが祝され、皆々様のご健康

が守り祈りようお祈りします

2024.7.5

主に祈りて

佐々木 敬



←早天祈祷会ご参加続けて1年!! 力強いお祈り! 皆、励まされています。

(主にまかせよ 汝が身を 水野源三第二詩集)

### 私の宝物 後宮 松代

私の机の抽出しに「私の宝物」と表書きをした小さな包みがあります。中味は聖書と古ぼけた一枚のハガキです。聖書の表紙をめくると丁寧にロマ書十二章二十節から二十一節と、それに加えて兄から私へのメッセージが次のように書かれています。

この聖書はどうかしてお前がクリスト信者になって貰いたいと思って、兄が一夜パン屋に行き得たる金にて買いしものなり。始めはわからない、然し読むのです。人間の力ではどんな偉い人も聖書はわからないのです。そこに神様の助けがあるのだ。祈れ、読め、賛美をせ。

一九四八年九月二十九日 兄保郎

松代殿

古いハガキは同じ九月に淡路の両親に出したもので後日私が手に入れ、この聖書にはさんで保存していたものです。それには「昨夜九時よりパン屋の小僧に行きました。朝の六時迄休む間もなく働かされ百二十円。お金のありがたさがわかります。以下略」この小さな聖書は、このような兄の労働による贈物であったのです。



2017年1月第42回年頭アシュラム、写真撮影時。松代姉(前列中央後宮師右)の長い長い語りが終わったと思いきや、また、語り出し、皆大笑い!

「もし汝の仇飢えは之に食はせ 渴は之に飲ませよ  
なんぢ斯するは熱き火を彼の頭に積む事」更に勝  
たる事なく善きもて悪に勝て 聖書十二章二十節  
兄保郎

「向こう岸へ渡ろう」アシュラムセンター 1992年発行より



(誕生日カード感謝のお便りより) 今年はもう来ないかなと思いつつ、ポストに見に行きましたが、来ていたのでとても嬉しかったです。私は圧迫骨折をして痛みが続き、主にいやしを祈っています。皆様からの祈りに励まされ、主に信頼して一歩一歩歩んでいきたいと思っています。シャローム。 木田和子(阪神アシラム)

# 主幹牧師の2023年度の振り返りと 2024年ビジョン(6) 完

## 2024年度の ビジョン

その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。

ヨエル3:1

5. 榎本光太兄、アシラムセンター主事就任について

さて、いよいよ本年のビジョンも最後になりました。最後は、長らく空席のままでしたアシラムセンターの主事を、榎本光太兄に引き継いでもらうことです。

初代主幹牧師の急逝の後、アシラムセンターでは榎本和子姉が主事として、センターの会計、事務一般を担い、アシラムの霊的指導者としてたてられた田中恒夫主幹牧師、そして歴代の常任運営委員長と共に、守り続

けてきました。

アシラム運動は、その推進のために、霊的役割と運営上の役割を分け、主幹牧師はその霊的働きに専心し、運営については、宗教学法人の代表役員である常任運営委員長を中心とした運営委員会に、そして日々の業務に関しては主事によって行われる体制がとられてきました。それはまさに初

代教会において弟子たちが「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない」(使徒6:2)と言い、



今年の年頭アシラムビジョンを語る会にて、アベルモン宣教師と光太兄。"主"

7人の霊と知恵に満たた人を選び、その任に当てるのと同じであります。

牧師は霊的仕事に、運営は運営委員会に、そして業務は主事に、その三者が毎朝の祈りの中で一つとなり、アシラム運動を推進すること、これが最も大切なアシラム運動の原理原則なのです。

今回、榎本和子姉の死去に伴い空席であった主事の職を、榎本光太兄が引き継いでくれることとなりました。アシラム運動の事務の要であり、「アンナ祈りの家」「シメオン黙想の家」などの管理運営、また主幹牧師の多岐にわたる活動のサポートに対して、若い人材が与えられたことは、誠に感謝なことです。

もちろんこれから本格的に進んでくるであろう少子高齢化の時代を迎え、人材的にも、財政的にも、アシラム運動を厳しい困難が待ち受けているに違いありません。

しかし、その尊い業を引き継ぎ、新しい希望を持って

進んでくれる若者たちにエールを送ろうではありませんか。このあと、ここで、先のアベルモン宣教師と共に、榎本光太主事の任職式を執り行いたいと思いま

す。「二生の間、あなたの行く手に立ちほだかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ」(ヨシユア1:5-6)。

この神の約束が、若き彼の上にも、置かれていることを信じ、祈ってまいりましょう。

以上が今年度の主幹牧師のビジョンであります。この他にも、来年度の「アシラムセンター開設50周年記念事業」、そして新たな礼拝施設、共同住宅(コレク



「光ちゃんアシラムよろしくね」この時託された!? 2018.2.てるこ師宅にて。

ティブハウス)のビジョンなど数々ありますが、全ては時があることを信じ、「祈りつつ前進」していこうと思っております。どうかこの困難な時代、暗く長いトンネルの中を手探りで歩いていような状態ですが、必ず、主は成し給うことを信じ、この1年を乗り越えてまいりましょう。皆様の上に、主の恵みと祝福がありますように。

2024年1月26日

アシラムセンター  
主幹牧師  
榎本恵



「わたしは、あなたのこと、祈りますね」祈りの人 アベル門宣教師。イエス様は、いつもあなたの命を導き、祝福してくださるように。神さまは愛です。



私のためにお祈りをして下さる方々を与えて下さった神様に感謝します。私も皆様のことを覚えてお祈り致します。またお会いできます日を楽しみにしています。

入江玲子(国際正義平和アシラム)

みもとに…



井上正子姉

(堺大浜キリスト教会)

常任運営委員会後ホッと  
して。和子母と2017年1月。委  
員会の度ごと、大阪より杖を  
つきながら通われた。アシュ  
ラム、聖書教室、沖縄巡礼の  
旅にもご参加！

2024年7月13日 召天



吉川禮子姉

(日本基督教団八尾教会)

大阪聖書教室の友。写真は  
2017年2月。いつも熱心に  
聴きメモをとり続けておられ  
た。帰りには共に蕎麦屋に！

2024年6月28日 召天



いえじま 雑記 14 伊江島にも是非！



先日「沖縄巡礼の旅」では、アシュラムのにぎやかな皆  
様を伊江島でお迎えできて、たいへん嬉しいことでした。わ  
ざわざ遠方よりお越しくださり、ありがとうございます。

伊江島でのツアーは、小学校でのクワイアチャイムの平和  
コンサート、榎本家での讃美歌の合唱、島めぐり、わびあい  
の里訪問、ビーチでのパーベキュー、修学旅行で伊江島に  
来ていた愛真高校の高校生との懇談と、盛りだくさんでした。

幸い、長く雨のやむことのなかった梅雨も、ちょうど巡礼  
の旅が始まるころには明けて、かんかんと照る太陽に皆さん、  
暑い暑いとこぼしておられました。

慰霊の日を迎える沖縄は、毎年大勢の訪問客で賑わいま  
すが、巡礼の旅のような旅行は珍しいかもしれません。有名  
な名所も、戦争遺跡も、記念館もまわらないのですから。それ  
はきわめて個人的な人びと、場所をめぐる旅であり、しかし  
それらがけって個人的なものにはとどまらずに、より大き  
な歴史や記憶、過去とつながっていることを感じる旅なの  
でしょう。ぜひ来年も伊江島でお会いできることを願って  
おります。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)



朴ホンソン師ファミリー、ロサンゼルスより、久々の里  
帰り！アンナ祈りの家泊。彼の地でのアシュラム再開  
を願う。写真は、新平師(左:てるこ師同志)と町散策に。



千客万来アンナ、シメオン黙想の家満室！  
ホンソン一家&マッキントッシュ家&中野姉。愛餐の時。



←みんなのカフェちいろは  
での聖書入門講座。恵師  
ご葬儀参列のため、るつ  
こ姉が、奨励。日々、みこ  
とばに聴き、祈ることを  
大切にできる喜びを語っ  
てくださった。皆様との  
分かち合いも輝いて。



←台湾より鄭姉(るつ子姉  
親友)ご来訪。ご専門は古  
文。源氏物語解説に引き  
込まれ

も、凍える冬も。(恵)

7月は福岡1日アシュ  
ラム、四国1日アシュ  
ラム、また天上の友を憶え  
る日礼拝等、セクター主  
催の行事が続いている。  
年々、厳しさをます暑  
さの環境で、また参加者  
の方々の高齢化も進み、  
本当に集会に出たくても、  
来ることのなかなかない方  
のおられることに心が痛  
い。この時期に続けるこ  
とは可能なかどうか、  
何よりも継続していくこ  
とができるのか、そんな  
思いがよぎってくる。  
私たちアシュラムセン  
ターや日本の教会の現状  
を考えると、暗澹たる気  
持ちはなるのは、私だけ  
ではないだろう。しかし  
「主は生きておられる」。  
主が生きておられる、主  
がこの私たちの嘆きの声  
を、嘆息を聞いておられ  
ると言うことだ。  
思い起こしてみよ。迫  
害の歴史の中で、何の答  
えも与えられない神の沈  
黙の前に絶望した時も、  
キリスト者は、今ここに  
おられる、生きた神を信  
じ続けた。私たちもまた、  
この時代を、「主は生きて  
おられる」と唱えつつ生  
きていこうよ。暑さの夏

あとがき



「早天祈禱会の祈りより」人の話ではない、人の箱ではない。深い神の配慮に、ダビデのように、踊り狂う程の喜びを持って、この主の日の礼拝を守ることができそうです。サムエル記下6 恵

中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター  
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

8月の聖書教室など	
6(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
10(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
11(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)
19(月)	使徒書に学ぶ会 (Zoom PM7:30)
28(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
9/6(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)

8月のアシュラムなど	
11(日)	第2回 ユースリトリートアシュラム 奉仕者 榎本 恵師 0748-33-4030
12(月)	大募集中！詳細、お申し込みは、ホームページで！ アシュラムセンター

9月のアシュラム予定	
9月7(日)	加古川祈りの家
9月12(水)~14(金)	修道場アシュラム
9月15(日)~16(月・祝)	第3回 ユースリトリートアシュラム
9月20(金)~21(土)	第47回 新潟アシュラム
9月26(水)~27(木)	第12回 日光オリーブの里アシュラム
9月28(土)	水戸バプテスト教会一日アシュラム
10月17(水)~19(金)	修道場アシュラム
10月24(水)~26(金)	第49回 加太アシュラム
11月4(月)~6(水)	第49回 京浜アシュラム
11月21(水)~22(木)	第46回 阪神アシュラム、修道場アシュラム
12月2(月)~6(金)	アドヴェントリトリートアシュラム

**Zoom 聖書教室のご案内**  
(2024年8月から2025年1月までの6回)

- Zoom 聖書教室 毎月第1火曜日
- 聖書と学ぶ会 毎月第2土曜日
- 使徒書に学ぶ会 毎月第3月曜日
- 美しい足の会 毎月第4水曜日

※いずれもセンター行事などの都合により変更することがあります  
 ※参加献金 月額2,000円、6ヶ月分(12,000円) 前納でお振込みください  
 ※申し込み詳細はホームページで  
 ※問い合わせ先…080-3983-8140 榎本光太

### みことば



日本キリスト教団取手教会  
牧師 金子敏明

行こうぜ、向こう岸へ ルカ8：22~25

今から7年前、イスラエル旅でガリラヤ湖の遊覧船に乗りました。すると突然強風に煽られ…なんてことは全く無くて、実にじつに穏やかな船上。音楽に合わせて踊りだす人たちもいたり楽しい時間を過ごせたものでした。たしかに周囲は山に囲まれて、湖は谷底。だから強風が吹きつけることが実際にあるそうですが…その体験はできませんでした。

「向こう岸に渡ろう」そこはユダヤ人であれば、足を踏み入れたくない土地だったのです。デカポリスというのは「10の植民地」つまりローマの植民地のひとつでした。イスラエルの民はサマリアやデカポリスといった地方の人々とお互いに「あんなヤツラのようにほなりたくない」「ヤツラと交わると穢れる」などと反目しあっていたわけですが。もっとも、それもまた支配者や大国の罠なのですが。福音書には「ヨルダン川の向こう側」(マルコ10：1)「向こう岸のベトサイダ」(マルコ6：45)という言い回しがされているところがあります。ベトサイダはイエスが最初の活動拠点として住んだカファルナウムにとっても近いのですが、心の距離は遠かったのです。しかもそこには墓場を住まいとし、裸で暮らしている男がいるらしい…なんてそんなところへ…と、弟子たちには心の中に高く分厚い壁が積み上がってしまっている。そこで、イエスは「じゃあ、その壁を超えてゆく旅をしようじゃないか」と、呼びかけているのです。

「先生、溺れそうです」いざ漕ぎだすと突風が吹き、弟子たちは慌てます。それにしても弟子たちの多くはガリラヤ湖の漁師であり、こんなことは騒ぐような事態だったのでしょうか。推測ですが、弟子たちの心情は「あんなところに行きたくない」「嵐を口実にして引き返したい」ということだったのではないのでしょうか。マルコ福音書によれば、イエスは艫を枕に眠っておられたという。艫とは、舟の一番後ろ、一番揺れの激しい位置である。激しい動揺、激しい葛藤と闘っておられたのは他ならぬイエスだったのではないのでしょうか。弟子たちと同じように、異邦人の土地に足を踏み入れることへのとまどいや恐れ、葛藤を感じながら、じつとその心の揺れと闘っておられたのではないのでしょうか。

先日参加した沖縄慰霊の旅では、25年ぶりに伊江島を訪ねた。島の団結小屋には阿波根昌鴻さんが書いたと思いきこんな言葉がある。

「戦争は誰を守るために、誰が命令して、誰が殺し合いをさせられるのか歴史に学ぼう」

聖書の時代同様に、国と国との間に敵意があります。いや、敵意を抱かされていると言った方が良いのかもしれませんが。マスコミ情報や教育の影響を受けて、さらには本日に攻撃されることで、わたしたちは、差別意識や偏見、敵意、さまざまな恐怖心を持たされています。それらを抱えたまま、わたしたちが忌み嫌っていたり、恐がっているような場所、すなわち「向こう岸」に出かけて行き、そこに生きている人と接触することは確かに恐ろしいことです。しかし、いざ出会ってみると「なんだ、お互いただの人間じゃないか」と気づかされるということもまたよくあることです。「嵐の湖に舟を出し、向こう岸に渡ること」……それは、人と人の間に橋をかけ、和解と平和を作り出してくださるイエス様のよびかけです。わたしたちはこの現実の中でイエス様の呼びかけを信じ、応え、平和を作り出す者でありたいと願うのです。



← 沖縄平和巡礼の旅  
2024 伊江島の団結道場にて(金子師写真後列)



あなたたちの先と進むのは、主であり、しんがりを守るのもイスラエルの神だから。

イザヤ五三：12 榎本恵子